様式第3号

# 自己評価報告書（最終報告）

| コース等名 | 教員養成特別コース | 記載責任者 | 木下　光二 |
|---|---|---|---|

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し，達成目標を設定するとともに，どのような具体的方策を立てて，目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

**1．目標・計画**

大学訪問や大学院説明会（特に，学内の学生向けの説明会も企画した）を充実させる，昨年度に引き続き徳島県教育委員会に教員採用試験合格者に対する優遇措置（大学院進学希望者に対する2年間の猶予期間）の採用を働きかける等，定員充足に向けてさらに努力する.

**2．点検・評価**

大学訪問は平成20年度の教職大学院設立以来，重点的に行っている。平成23年度もコース教員が約20校の大学を訪問し，実際に訪問した大学から入学者を出すなどの成果を出している。また，学内を含めた大学院説明会も実施し，平成23年度は，本学学部から2名の進学者，説明会参加者の中からの入学者も出している。結果として平成24年度本コースの入学者は定員を超える11名の入学者を出すことができた。
設立以来課題であった徳島県教育委員会に教員採用試験合格者に対する優遇措置（大学院進学希望者に対する2年間の猶予期間）について平成23年度から実現できたことは，働きかけの成果と言える。

Ⅰ－2．学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには，常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。
貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し，本年度どのような学生支援の取り組みを行うか，具体的な方策を示して欲しい。

**1．目標・計画**

学生の教員としての力量形成をはかるため，また，教員採用試験合格に向けて，取り組んでいく．具体的には，次の通りである.
・教員養成特別コース院生に対しては，採用試験対策として，コースとして，昨年度と同様に，週2回程度，面接などの対策を進める。
・学校教育実践コース学部生に対しては，「初等中等教育実践基礎演習」をはじめとする場で教職に関する多様で豊かなイメージの形成を図る.

**２．点検・評価**

教採対策においては，週2回程度の面接や集団討論などの対策の強化を行った。本コースの実務家教員は，実際に小学校の管理職や教育委員会の面接官等の経験を有しているので，学生にとってはより実践的な対策になったのではないか。
「初等中等教育実践基礎演習」では，「教育を知る」「学校を知る」をテーマに，コース教員全員が授業を行った。本コースの教員は、研究者教員に加えて学校教育現場に精通している実務家教員が配属されているので、理論と実践の両面からの講義が実施でき，学生にも好評であった。

## Ⅱ．分野別

### Ⅱ－１．教育・学生生活支援

**１．目標・計画**

・教員養成特別コース院生に対しては，実践研究が充実するよう，ICT機器や指導書をはじめとする環境を整える.
・学校教育実践コース学部生に対しては，既存の学校教育コース2~4年生とのつながりを促進するとともに，教員養成特別コース院生，教職大学院現職院生ともコンタクトが取れるよう場の設定をする等働きかけ，6年間を通した力量形成のイメージを持たせるようにする.
・学校教育実践コースの教員と学部生のメールアドレスを含むメーリングリストを作成し，学生に細やかに対応できるようにする.

**２．点検・評価**

平成23年度は、教員養成特別コースの院生室に小学校全教科の教科書と指導書をコース経費で購入し，いつでも閲覧できる環境を整備した。また、本コースの教員が行っている科研の中で、全ての学生にipodを配布し、映像やデータを常時活用できるようにしたことも、学生にとても好評であった。
「教科等指導の基礎的理解と実践」における模擬授業では，教職大学院現職院生とのコラボを実施した。実践に基づく率直な意見を聞けたことは，授業作りのヒントや励みになったようだ。
構想発表会や最終成果報告会を，6年一貫コースの学生にも公開したことは，学生同士のつながりにも効果的であった。次年度は更につながりが進むよう，様々な取り組みを行いたいと考えている。また，学部と大学院ともにメーリングリストを作成し運用した。学生の授業記録や実習記録はもとより，作成した指導案や教材等を教員全員が共有でき，教員が即時的に助言や指導ができたことは，学生の指導には効果的であった。

### Ⅱ－２．研究

**１．目標・計画**

・それぞれが独自に研究を進めるとともに，教職大学院における学卒者のカリキュラムのありようについて，コース全体で研究を進める。
・学部「学校教育実践コース」の運営を通して，6年一貫を見通した教育カリキュラムの検討を行う.

**２．点検・評価**

それぞれが独自に研究を進めるとともに，教職大学院における学卒者のカリキュラムの有り様についてコース全体で研究を進め，より実践的な授業や演習が行えるように工夫した。学部「学校教育実践コース」の運営においても，より実践的に学べるよう，大学院教員養成特別コースとの合同の授業や合同の演習を行えるように検討を進めた。
コース教員の科研費採択状況は，研究代表者2名（2件），研究分担者4名（6件）であり，うち1件はコース教員3名による教員養成に関わる研究である．研究内容の充実がコースにおける教育の質の充実につながっているとともに，コース教員数との比率を考えると大学の科研費採択状況に大いに貢献しているといえる。

## Ⅱ－3. 大学運営

**1. 目標・計画**

各自，委員として，学内の各種会議に出席し，職務を遂行する.

**2. 点検・評価**

各自，委員として，学内の各種会議に出席し，職務を遂行した。特にH23年度は，教員養成特別コースと接続する6年一貫を見越した学部新コース「学校教育実践コース」が始まり，理論と実践力を持ち合わせた教員養成に努めている。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

**1. 目標・計画**

・教員養成特別コース院生の実習を円滑に行うため，鳴門市小学校・中学校，鳴門市小学校校長会・中学校校長会，鳴門市教育委員会，徳島県教育委員会と連携を取っていく.
・本コースは教育支援講師・アドバイザー制度による講師派遣の件数が多い。23年度も継続し，地域の学校への支援を進める。
・附属小学校研究会における指導助言や，附属幼稚園における研究の共同研究者として関わる等，附属校園との連携も密にする.

**2. 点検・評価**

附属幼稚園や附属小学校とも連携を進めている。附属幼稚園ではコース教員の2名が，研究協力者となり，定期的に幼稚園を訪ねて合同研究を行ったり，文部科学省研究委嘱である幼小接続の教育課程開発研究を合同で行ったりしている。附属小学校とは，コース教員の2名が，図工科と生活科の研究協力者となり，授業研究会や研究発表会に講師として参加するなどして，共同研究を行っている。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

上述したことではあるが，H23年度は，教員養成特別コースと接続する6年一貫を見越した学部新コース「学校教育実践コース」の運用が始まった。4+α年の教員養成が制度化されない段階で，先導的に取り組む本学の姿を社会を示すのに，本コースは寄与している。